

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>
～夢に向かって～

第11号

令和8年1月8日発行
さいたま市立土屋中学校
さいたま市西区土屋1766-1
TEL 048-622-4611
✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『タイムマシーン』

校長 小熊誠

令和8年の幕が上がりました。まずは、大きな青空の下、穏やかに新しい年が迎えられたことに感謝です。そして、保護者・地域の皆様を始め、生徒、教職員、土屋に携わっていただいている全ての皆様に感謝です。この感謝の気持ちを胸に、仕事始めに教頭と主幹教諭と共に、屋上からの富士山と土屋神社に令和8年の誓いを立てました。今年も土屋教職員一同、私たちの宝である生徒たちを、守り、磨き、輝かせるために尽力して参る所存です。皆様、より一層の御理解と御協力、そして暖かい御支援をよろしくお願ひします。

さて、私には数十年続いている年末年始の大変な恒例行事が二つあります。

一つ目は、12月30日、中学校の恩師(剣道部顧問)を囲み、部活の仲間を中心に馴染みの店に集い酒を交わすことです。恩師は歳74歳、集う私たちも皆還暦越え。それでも毎年20人程度が集い、一年の垢を流します。恩師もまだ部活動指導員として働き、私たちもほぼ全員がフルタイムで働いています。まだまだ枯れ切っていない面々ですが、ここ数年は、自分たちの健康のこと、親の介護や葬式、相続のことと、決して明るくない話題が中心です。しかし、中学時代の、特に部活の話になると、まるでタイムマシーンのように、全員が当時の少年少女に戻り話にパット花が咲き、元気を貢献します。やはり部活はタイムマシーンです。

二つ目は、1月2日に、私の家に教え子たち(陸上部を中心)が思い思いの酒を携えてやってくることです。教え子たちといつても30代後半から40歳を超えた面々です。中学や高校の教員(管理職含む)、警察官、IT企業の役員、起業家、自動車産業、銀行、コンビニ経営、大工(私の家を作りました)等職種は様々です。教え子同士で結婚した夫婦も何組かいて夫婦で参加したり、結婚する年には、奥様を連れて参加したり、ここ数年は子ども同伴も増えました。そこに私のカミさんや息子も参加して賑やかに年の初めを過ごします。やはり中学時代の、特に部活の話になるとタイムマシーンようにすぐに中学時代の腕白小僧と暑苦しい熱血教師に戻ります。今年は一組の教え子夫婦が中学2年の娘を連れてきました。彼女は私たちの関係を、「部活の仲間共、顧問共、パパたちのようにこんなに長くずっと続くなんて凄く不思議だけど、凄く羨ましい。だからこの集まりに是非参加してみたい」とせがんだそうです。彼女は自分でも市内入賞レベルで、学校の部活にも所属していますが、クラブチームにも所属しています。学校の部活は毎日有るわけではなく、土日も殆ど無く、冬休みの部活も4回と一緒にいる時間も少ないので、部員同士腹を割った話もしないし、顧問とはプライベートなことは全く話さないそうです。クラブチームの練習は、土日はもちろん、いつでも参加OKで、この31日と1日も練習に参加したけど、全体的にフランクで先生と教え子というような関係は無くプライベートで会おうとは思わないそうです。だから彼女は、実際に私たちの関係を見て、感じて、「不思議で全く想像もつかない別世界だけど、憧れる。私にも自分が子どもを持ったとき、こんな素敵なかつありあるのかな?」とキラキラした目で話してくれました。そして「パパたちの部活ってタイムマシーンみたい。私にはタイムマシーンあるのかな?」とボソッと呟きました。今、世の中は、「働き方改革」「部活動の地域展開」と大きく変化しようとしています。しかし、もしかしたら子どもたちの思いは、何処か違うところにあるのかもしれません。彼女にも「タイムマシーン」に乗らせてあげたいと強く感じました。今年の集まりの最後に教え子の子どもで小学2年の女子から右のような素敵なお手紙を貰いました。このお手紙を胸に今年も子どもたちのために、子どもたちの未来に向けて尽力して参ります。どうぞよろしくお願ひします。

